トヨ子＆としやの 市政報告

2017年
10月号
第26号

発行者：日本共産党大垣市議団
発行日：2017年10月 1 日
連絡先：大垣市室本町５－８
Tel 78-6865 Fax 73-8572

笹田トヨ子　建設環境委副委員長
子育て日本一対策委
Eメール　sanba1@sasada-toyoko.jp
中田としや　議会運営委
経済産業委
Eメール nakatatoshiya015@gmail.com

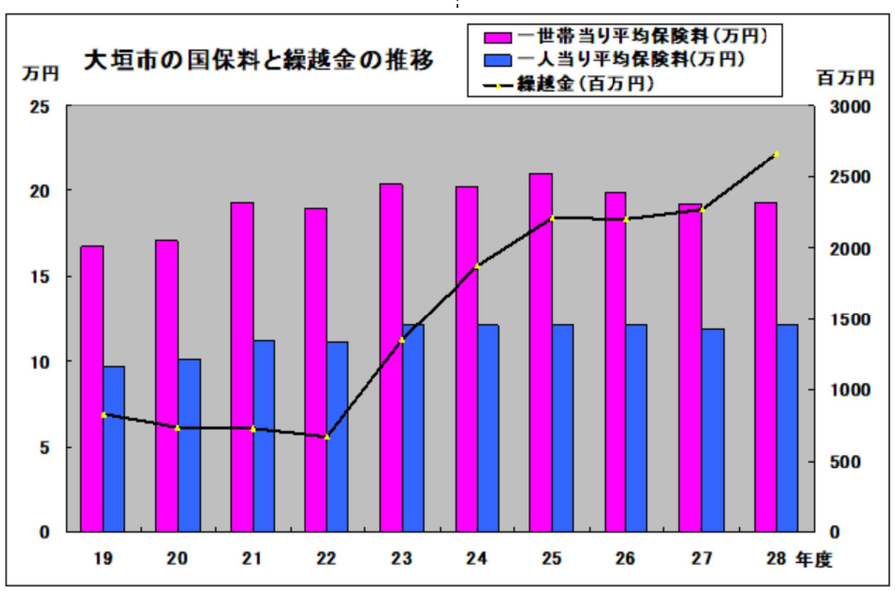
大垣市の国保料と繰越金の推移

大垣市の国保料と繰越金の推移
国保料は平成20年から後期高齢者支援金が追加されたため、国保会計の単年度収支が赤字となり、平成22年・23年と国保料を値上げしました。保険料率を引き上げるとともに応益負担の均等割・平等割も値上げしました。その結果、国保料の収入率は下がり、国保料が払えなくなった世帯が増えました。

一方、収支は黒字に転化し、年々繰越金額は増え、28年度は26億円まで累積されています。過去10年間の国保料の推移と繰越金がどれだけ累積されてきたかグラフ化しました。

来年度から国保会計が県単位化され、納付金は県に１００％上納しなければなりません。そのためには払える保険料にして滞納者をなくすことです。

私は一般質問で、国保会計は毎年黒字を出しているので、国保料を引き下げることは可能であると主張しました。そして、病気等で急激に収入減になった場合などは国保法44条および77条の減免制度が活用できるよう要綱の見直しを求めました。



市議会テレビ報道余聞

一般質問のテレビ放映がされるようになって1年半、私は恥ずかしくて自分の姿は見たことがないのですが、先日も「テレビを見たよ」と何人かの方から声をかけられました。　またメールで「大垣市の国保料が高いのがよく分かった」との感想もいただきました。

一般質問の際に「え～」をはさむことが多いので直した方がいいよというアドバイスも。皆さんの率直な声は本当にありがたく、感謝しています。

（笹田トヨ子）

トヨ子＆としやの9月活動日誌

笹田トヨ子

【9月】
2日　2区キャラバン街頭宣伝
3日　養老鉄道総会と講演
4日　9月議会本会議（第1日）
11日　一般質問
13日　決算委員会
14日　委員会(子育て・市民病院)
15日　委員会(建設環境・経済産業)
　　社保協会議
18日　興文小運動会
19日　委員会(文教厚生・企画総務)
　　市民連合講演会
20日　本会議
　　海津市議選応援
21日　社会福祉婦人理事会
22日　伊自良苑訪問
23日　敬老会
24日　ピースウェーブ大垣駅南口
25日　未来ビジョン審議会
28日　来年度予算要望市長交渉
　　地区センター運営会議

中田としや

【9月】
3日　養老鉄道の未来をつくるネットワーク総会
4日　本会議
　　養老IC開通記念シンポジウム
7日　フットサル
8日　生活保護申請同行
10日　海津市議選事務所開き
11日　一般質問
13日　決算委員会
14日　委員会（子育て・市民病院）
15日　委員会（建築環境・経済産業）
16日　ピースエッグ
17日　東地域訪問、「志多ら」公演
18日　江東小運動会
19日　委員会（文教厚生・企画総務・議会だより）
20日　議会運営委員会、本会議
21日　海津市議選応援
22日　障がい者施設視察
23日　江東校区敬老会
24日　ピースウェーブ署名

日本共産党は、衆議院議員選挙で岐阜二区に森桜房義氏を候補者として擁立しています。

森桜　房義（59）＝新＝
国際医療専門学校臨床検査技師科中退。赤旗大垣分局長、党西濃地区副委員長など歴任。14年衆院岐阜２区立候補。党西濃地区委員長。

解散権まで乱用！ 安倍政権の暴走きわまる

「野党の共闘で安倍政権を退場させよ」の 市民の声を誠実に受け止める党の選択を

国政私物化の 疑惑隠し解散

まったく国民不在の異常な解散としか言いようがありません。あまりにひどい強権的な政治姿勢への国民の怒りが都議選での歴史的惨敗をもたらした安倍自公政権。それが北朝鮮の核実験・ミサイル発射に対する国民の不安と民進党の混乱に乗じての一か八かの解散劇です。

いきなりの感じは確かにありますが、もとより安倍政権の退場は心ある市民の声でもありました。

市民の声をよそにした 合流騒ぎに希望なし

都知事になって公約も果たしていない小池知事が「希望の党」の代表にすわり、これも民進党の代表になったばかりの前原氏が解党的な「希望の党」への合流を決断しました。マスコミはいっせいに書き立てていますが、こうした動きは、暴走する自公政権に抗して立ち上がった市民の声を誠実に受け止めるものになってはいません。立憲主義・秘密保護法・安保法制・原発・核兵器など声を大にして訴えてきた市民と政党が共闘する流れこそが未来ある大道です。

安倍政権退場の 歴史的チャンス

９月21日、志位和夫共産党委員長は、安倍政権退場の歴史的チャンスとして総選挙の論戦を五つの柱で強調しています。

① 国政私物化、憲法破壊、民意踏み付けの安倍暴走政治に退場の審判を

② 北朝鮮問題の外交的解決、憲法違反の安保法制＝戦争法の廃止を

③ 消費税10%の中止、格差と貧困をただす経済民主主義の改革を

④ 安倍政権による憲法9条改定に反対する――この一点で国民的審判を

⑤ 核兵器禁止条約に参加する政府をつくろう

立憲主義・民主主義を 取りもどす政治を

「自公と補完勢力」対「野党と市民の共闘」となるこの総選挙を、目先の合流劇に振り回されず、日本共産党の躍進を訴え抜いていきます。

核兵器廃絶を求める「平和の波」行動 2017.9.24 大垣駅前

衆議院の解散総選挙を受けて、これまでご案内しておりました行事の中止をお知らせいたします。ご理解ください。

○ 10月15日(日)予定

後援会秋の行事　養老鉄道に乗って桑名に行こう

上記の後援会行事を中止いたします。

○ 11月11日(土)予定

日本共産党演説会　大垣市文化会館

上記の演説会を中止いたします。

市民アンケートの中間集計から

８月中から1ヶ月間、日本共産党市議団では、市民の声を市政に反映させるため、新聞折り込みに入れるかたちで市民アンケートを行いました。結果、72通の回答を寄せていただきました。

さて、市民アンケートの結果について、今回は、中間報告として社会保障の問題をとりあげます。　まず、「毎日の生活・暮らしはどうですか？」という問いに対して、「ゆとりがなく、少し不安を感じる」が26人、「苦しい、先行きに大いに不安」と答えた方が31人と、全体の79%の方が生活にゆとりがあるとは言い難い生活をされているという結果でした。

その原因として、「国保などの公共料金の負担増」と答えた方が47人で65%、「年金が減った」と答えた方が40人で55%でした。また、「物価が上がった」とした方が23人で31%の方が物価があがったと感じていました。

自由記述でも、特に社会保障についての記述は目立ちます。一例をあげると、「医療費の3割負担は大きい。垣老の制度で対象年齢を引き上げてほしい」という60代の方の声、「自分たちに本当に年金がもらえますか」という40代の方の声がありました。

また、「国民健康保険の資産割をなくしてほしい」と生活実態を具体的にあげながら提案してくださる方もありました。さらに、「コミュニティバスの必要性」についても多くの方から切実な状況を合わせて記入いただいています。

この間、国民健康保険の保険料について、９月議会で笹田議員が一般質問をしていますが、来年度から国民健康保険の制度が大きく変わります。市民の負担感をしっかり把握しながら、保険料決定についての議会としてのチェック機能を果たしていく必要を感じています。

現在、「立地適正化計画」が打ち出されていますが、どちらにしても超高齢化社会の中で、生活を支える足の問題が深刻です。公的責任で、利用しやすい市民の足が確保されるよう、市のきめ細かな交通政策が求められています。

アンケートの結果を見て、笹田・中田両議員は、貴重な市民の方々の声を市政に反映させたいと決意を新たにしています。アンケートにご回答いただいた方々に感謝申し上げます。これからも、まだお手元に用紙をお持ちの方々のご回答をお待ちしています。

（まとめ…はんざわ多美）